

第3回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2009年12月21日（月）午後3時～5時

場 所：明治安田生命ビル 2階 第4会議室

出席者：[委員]小倉、庄司、瀧田、岩森、末吉

[川崎市]地球環境推進室

[事務局]NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

1．開会

委員長から開会のあいさつ。

2．配布資料確認

事務局から配布資料の確認を行った。

3．事業経過の報告について（資料1）

事務局から、前回委員会から今までの事業と今後の予定が資料に基づいて報告された。

4．市民コンパクト参加プログラム確認（資料2）

事務局から二ヶ領用水ウォッチング・フォーラムが申請したプログラム「二ヶ領用水の環境用水化」についての各委員の確認内容が報告された。集計の結果、市民コンパクトの原則に基づいた内容であることを確認した。

確認に先立って、末吉委員から事前に資料を確認することができなかったため次項のビジネス・コンパクトの審査とともに市民コンパクトの確認を辞退することの申し出があり受理された。

委員長からコメントの内容に関して、インタビューなどの場で聞き取ってほしいとの意見が出された。

5．ビジネス・コンパクト新規企業審査（資料3）

事務局から新日本石油精製株式会社（参加単位：川崎製造所）の申請について、各委員の審査表の集計結果が報告された。有効票数が4票のため満点を60点とした。評点の合計は40点で、平均点（36点：全項目3点）以上となりビジネス・コンパクトのパートナー企業として登録することを承認した。

ビジネス・コンパクトのパートナー企業の参加を増やす取り組みについて、委員から市に対して、2010年4月に施行される条例と絡めて積極的に企業に呼び掛けることはできないのか、などの意見が出された。市からは、条例への具体的な組み込み方については検討中であるが、2月の説明会の中で、かわさきコンパクトについても、盛り込んでいく予定であるとの回答があった。

6．かわさきコンパクトフォーラムの開催について（資料4）

資料4に従って、市から「かわさきコンパクトフォーラム」の提案があった。

活動報告を岩森委員、司会を瀧田委員が担当することになった。なお、庄司委員から同じ時間に自治推進フォーラム分科会を運営するため、当フォーラムを欠席すると申し出があった。

(意見交換)

広報活動について

- ・ 市の広報へ掲載のほか、リエゾンセンターや商工会議所のメーリングリストにも流す。
- ・ チラシを作って、かわさきボランティア・市民活動フェア、川崎国際環境技術展の場で配布する。
- ・ 今回、自治推進フォーラムとの同時開催なので、来場者が各会場に割れてしまうことが考えられる。自治フォーラムは、多様な分科会を設け企業や自治体などを呼び込むようにしたが、どれだけの人が、異業種の場所に関心があるのか、調べておいたほうがいい。
- ・ ちらしは、年明け早々に作成し、月一回のNPO連絡会や、アクト川崎やせせらぎ館など大きな団体を回って、直接広報して動員かけるつもりで呼び掛ける必要がある。他にも市民活動フェアなど、申込書を持参しその場で参加申し込みをしてもらう。
- ・ テーマやタイトルが確定しチラシができた時点で、ナンバーゼロへの掲載など広報を行う。
- ・ 申込制にする。

講演のテーマ・タイトルについて

- ・ かわさきコンパクト参加企業および市民活動団体を対象としたが、企業や団体などは呼びかけ次第で動員を確保できるので、一般市民を対象にした内容のほうが多くの人を呼べるのではないか。
- ・ 「協奏」という言葉のインパクトが弱い。もっと教えてもらえる、学べるといったプラスアルファが分かるようなタイトル、またはグローバルコンパクトにつながる、色々な人がかかわっていることが見えるようなタイトルがほしい。
- ・ 市民を主軸にしたテーマに組み立て直し、市民をターゲットにして、日本と外国の対比などや広域的な内容にし、また呼びかけやすくするためにわかりやすいタイトル、誰が来てもよいと思える内容にしたい。
- ・ かわさきコンパクトの取り組みの見せ方にグローバルな視点を持たせたいことから、世界の市民の動きを伝える内容の映像を休憩時間などの空いた時間に放映するのはどうか。市のほうで該当する映像を探すことになった。

7. 来期の取り組みについて

資料5に従って、市から来期の取組についての提案があり、意見交換がなされた。

(ビジネス・コンパクトの登録企業を増やすことについて)

- ・ グローバルコンパクト(以下、GC)の参加企業は、努力をして100社を超えた。ある企業の社長が献身的に動いたことが、参加につながった。
- ・ (市)GCに参加した企業が、かわさきコンパクト(以下、KC)への参加も前向きに検討中とのこと。

- ・ (市) GC-JN 参加企業について、市内事業所リストを作成中である。そのリストをもとに来年度は個別に参加の呼びかけをしたい。
- ・ ビジネス・コンパクト(以下、BC)参加企業で GC-JN に参加していない企業もある。協働作業で取り組みを進めたらどうか。
- ・ 川崎市が KC、BC をどう活用するのかが見えない。市の対ビジネスのチャンネルとして BC を使っていかなければ、企業側は手間のかかることなので増えない。

(市の KC 取組姿勢について)

- ・ 条例に絡めて、BC に入っていれば十分条件になるような話がないと、企業は参加しない。ステイタスになるといいが、そこまでは今の段階では難しい。
- ・ (市) 庁内の職員研修で説明する機会があったが、環境分野を主体にしていることもあって、他局への浸透が難しい。局を横断する推進会議を設けて、他の分野にも当事者の認識を持って貰うように庁内のロビー活動をやっている。
- ・ 市の封筒には GC のロゴがはいっているので、KC もロゴを入れてほしい。
- ・ 市の施策を進めるために、GC、BC、市民コンパクト(以下、SC と表す)をどう活用するか市の姿勢が見えない。
- ・ 市長の年頭挨拶などの演説に、環境に対する動きが川崎で起こっていることの一例として KC を語って欲しい。入れてもらうように働きかける必要がある。
- ・ 条例の説明会に絡めて、KC への参加が企業にとって利点になることを提示できないか。
- ・ (市) 規制に関する説明会なので、なじまないかもしれない。川崎市の対応が定まる時期で実務者向けの会合を開催したい。
- ・ 市長と懇親の場を設ける。例えば企業セミナー後の懇親会などに市長が出席する。
- ・ KC の理念は、あらゆる分野の事業にとって大事なことである。役所のなかで浸透されていないと KC 拡大に支障があるのでは。
- ・ 市民団体は KC へ参加しても企業との連携が難しい、本気で市は企業と市民の協働を考えているのか。KC をどう活用していくのか、どういう方向でやっていくのか、市は明確に出して欲しい。それがあれば、他の団体にも参加を呼びかけやすくなる。
- ・ 審議会や諮問の会議を作り進めていくことで、市民や庁内へのアピールにもなるのでは。
- ・ 市民団体や企業が、KC をどう利用していくのか、行政が戦略を用意し、それを持って組織作りする必要がある。参加している人たちが自ら体を動かしていくような組織にしていかなないと、市が手を離したら終了してしまう。既存のネットワーク組織であるリエゾンは、強いヨコのつながりを持っている。同じように KC もそういう組織にしたい。
- ・ 時代の先を絶えずとらえていて、魅力ある街、企業からしても市民からしても住みたくなる街にしていきたいと市長は考えているはず。GC に基づいて、課題へ取り組み、市民と企業との対話を進めている都市としてイメージ化されたら、他の自治体と全く違う自治体の在り様になる。
- ・ KC ができて 3 年目。庁内の体制を作り直し、KC の存在を再認識してもらえるように、市長へ目を向けて欲しいという姿勢をとっていく必要がある。併せて参加した組織がメリットを感じてもらえるように庁内で働きかけていく。

- ・ 川崎市が行っている、音楽の街、映像の街の取組は、大きな動きを見せている。市の予算も少ない中で、色々な立場の団体を巻き込んで、大きな取組になっており、市民にも浸透している。事業は、最初の2~3年の瞬発力が浸透していく力になっている。インパクトがないと浸透しない。
- ・ 映像の街は、市も利益を得ていて、雇用が進んでいる。動きができています。多くの企業の参加があって元気がある。NPOが事務局を担当していて委員会は年に1回だが40人ほど集まる。KCも同じようにできないだろうか。
- ・ 企業と市民団体の協働事業を一事例でも仕掛けたらどうか。モデル的にやることでイメージが伝えられる。
- ・ 中小企業や地元で根付いた組織に働きかけて参加してもらおうと市民との接点も増える。
- ・ (市)市の活用の姿勢だが、KCの基本設計書に立ち返ると、委員会の主導により協働を生み出していくことが描かれている。仕掛けをしていく方策を考えて提案をしていきたい。
- ・ 有識者のほかに、交通費くらいの謝礼で、各団体や企業など大勢に参加してもらい、現場の声を取り入れた委員会にする方向はどうだろうか。

以上の意見交換を踏まえて、次回の委員会で具体的な方策を提案することとなった。

8．その他

次回委員会の日程：3月14日 12時15分～13時 中原市民館の視聴覚室

9．閉会